

保育研究会 保育のたまため箱「ピコロ」 活動報告

渡 邊 輝 美

私たち保育のたまため箱「ピコロ」は、昨年度に新しく誕生したばかりの研究会です。

幼稚園や保育園、認定こども園などの保育現場で、実際に役に立つ保育者の技術や教材知識が身につくよう楽しく練習をしています。

パネルシアターを中心に、大型絵本や紙芝居・手遊び歌など子ども達を惹きつける児童文化財が披露できるように頑張っています。

2年目の研究会であり、現在1年生1名、2年生2名で活動しています。今年度は、昨年12月にビーコンプラザで行われた「短大合同ウインターフェスティバル」、ビーコンプラザで行われた「演劇祭」に参加させて頂きました。「短大合同ウインターフェスティバル」は、友達や子ども達が見守っていることもあり、非常に緊張をしましたが、練習してきたことを生かし、楽しみながら披露することが出来ました。

人数が少ない研究会ですが、保育研究会の魅力を後輩に伝え、保育研究会の歴史を作りたいと思っています。

2年間の研究活動を通して

初等教育科2年 久保友香理

私は、「実際の保育現場に役に立つ技術を身に付けることが出来る」と書かれたピコロのチラシを見て、この研究会に興味を持ち、友達を誘ってこの研究会に入りました。始めは、研究会に入ることに緊張していましたが、先輩方は、みんな優しく歓迎してくれ、とても嬉しかったです。先生もとても歓迎してくれたのを今でも覚えています。

私が研究会に入った時は、コロナウイルスの感染拡大により思うように練習も出来ず、イベントもどんどん中止になっていき、研究会に入った意味があるのだろうかと思ったこともありましたが、しかし、先生から、「先輩方は自宅



でエプロンシアターやマジックなど自主練習をしている」と聞き、先輩方が、自ら進んで活動に一生懸命取り組む姿を見て、私も今の自分にできることは何かを考え取り組むことに決めました。そのため、遠隔授業の期間にエプロンシアターを製作し、練習をしました。私は、この研究会に入ったことで、先輩方から様々な刺激を貰えたことにとても感謝をしています。

1年生の時は、ウインターフェスティバルに

向けて練習をしました。友達と先輩方に少しでも近づけるようにと一生懸命パネルシアターの練習をしました。始めは、歌いながらのパネルシアターはとても恥ずかしく、動きも小さくなっていました。しかし、先生や先輩方は、「どんどん上手になっているよ。」「上出来だよ」などと沢山励ましてくれ、本当に嬉しく、やりがいを感じていました。その後はコロナウイルスの感染拡大予防のため、フェスティバルは中止になり、実際に披露することは出来ませんでした。先生や先輩方と一緒に練習が出来たことで、自分の成長に繋げることが出来、とても貴重な時間になりました。

2年生になると、1年生に向けての研究会紹介で、パネルシアターと手遊び歌を披露することが出来ました。初めての舞台でとても緊張して、納得のいく発表をすることが出来ず、悔しい思いをしました。沢山の先生方が「とても上手だった」と認めてくれ、とても嬉しかったです。研究会紹介が終わると、今年はイベントが行われることを祈りながら、友達と練習に励みました。初めて1からパネルシアターを制作し、完成したときは、達成感を味わうことが出来ました。授業ではパネルシアターを1から作ることはなかったので、とても貴重な経験をすることが出来ました。

イベントが近づくにつれて、先生からは細かい指導を頂きました。最後まで助言を頂いたことは、「手の指と指の間を開く」ということでした。緊張するとどうしても動作が小さくなってしまいましたが、私の課題でした。そして、イベントの当日を無事に迎えることが出来ました。沢山の観客がいる中での発表はとても緊張しましたが、とても嬉しかったことは、子ども達が夢中になって見てくれていたことです。その姿を見て、今までの練習が報われたことを実感でき、私は、楽しみながら発表を終えることが出来ました。さらに、12月にはもう1つのイ

ベント「演劇祭」に参加することが出来ました。このイベントでは、今までで1番楽しみながら参加し、笑顔で終えることが出来たことがとても嬉しかったです。経験を重ね、自分に自信をもてたことは、この研究会に入って良かったと改めて実感することが出来ました。

最後に、私は、練習が思うように出来ないこと、授業が終わり、友達が先に帰っていく様子から、研究会を続けるか迷った時期もありました。しかし、この研究会に入ったことで、貴重な経験を沢山することが出来、また、自分に自信をつけることが出来たので、最後まで諦めずに続けて良かったなと思いました。さらに、一緒にこの研究会に入ってくれ、いつも一生懸命、一緒に練習をしてくれた友達に感謝をしています。そして、練習のたびに、励ましの言葉をくれた渡邊先生には本当に感謝をしています。加えて、渡邊先生のご指導のおかげで、自分にも自信をつけることが出来、この研究会に入って良かったと心から思っています。

素晴らしいこの研究会を残すためにも、これから、沢山の後輩が入ってくれることを願っています。



この研究会を通して

初等教育科2年 北野 愛海

私はこの研究会なら将来絶対に役に立つと思いいりました。本来ならこの研究会では、絵本の読み聞かせやエプロンシアター、紙芝居、パネルシアターそして、手遊び歌を中心に活動しています。しかし、私たちが入った時にはコロナウイルスが流行し、学校にもあまり通うことができなかつたため、研究会の活動もあまりできませんでした。そのため、私は先輩方が一から作り上げたこの研究会を、次の後輩に受け継ぐことができるのか不安でした。それでも“練習をする時間が少しでもあるなら”という思いがあり、先輩方が実習中でいなくても、自分たちで日々練習を続けてきました。コロナウイル



スが流行っていたため、保育園に行って実際に子どもたちに見せることもあまりできず、初めてわくわくフェスティバルでみんなに見てもらえると思って、一生懸命先輩方と練習をしてもフェスティバルが急に中止になることもありました。それでも、イベントがいつかあることを願いながら「パネルシアターをする時はパネルが見えやすいように工夫して貼り付けるんだよ。何もしていない時は体を揺らしながら歌うと、もっと楽しく感じてくれるんだよ。」など先輩方から頂いた沢山のアドバイスを受け入れながら一生懸命練習しました。結局先輩方と活

動できたのは練習の時だけで、(一回でも誰かに見てもらえる時があれば)と思いながら練習に励んできましたが、活動がなくても練習の時には、優しく楽しくパネルシアターのやり方を教えてくれた先輩方には感謝しかありません。私たちが2年生になると、新一年生に向けてそれぞれの研究会を知ってもらうための発表があったり、最初で最後のウインターフェスティバルがあったり、保育園の子どもたちにパネルシアターを見せるなど、少しずつ通常の研究会のように活動できるようになってきました。新一年生に私たちの研究会の姿を発表した時が私たちにとって初めて披露する場であり、とても緊張しました。声も通らず、最初に流すはずの動画も流せないことから焦り、なかなか上手くできませんでした。しかし、沢山の一年生や先生方、他の研究会の方から(凄く上手だったよ。)と声をかけてくれ、今まで人前で発表することが苦手だった私にとって、その言葉がとても嬉しくこの研究会に入って良かったと感じました。一つ一つの経験を積み重ねていくことで自分に自信を持つことができるようになりその後の、ウインターフェスティバルや、最後の「演劇祭」のイベントでは、大きな声で子どもたちの顔を見ながら楽しく活動できるようになりました。

私はこの研究会を通して、人前に出ることが恥ずかしくなくなり、自分に自信を持つこともできるようになりました。また、この研究会に入ったことで、自分のマイナス面をプラス面に変えることができたり、積極的に何かに取り組むことの重要性を感じたりすることもできました。これから先、保育者になった時には、何事にも積極的に取り組み、まわりの人の笑顔を大切にしていきたいと思います。

